ニュージーランドの思い出…金丸信乃　New Zealand

息子連は、期待に胸を膨らませて小学校に入学したのもつかの間、2学期半ばのある日突然登校拒否に。不登校関連の本を読みあさるものの何の解決手段も見出せず、家の中では兄弟けんかが日増しに激しくなり重苦しい日々が。そんな中、インターネットで不登校・フリースクール・英会話などと検索を繰り返すうちにひとつのホームページが目に留まり、CASのMichi先生との出会いがありその日から我が家は明るくなって行きました。5ヶ月もの間放っておかれた学校は2年生進級時に転校、そして始まった一学期間の母子登校と週一回のCASでの英語のレッスン。それまで仕事漬けだった生活が一変して徹底的に息子と付き合う毎日、そして遂に不安だらけのまま「変わるから、大丈夫」Michi先生の言葉だけを信じて親子でニュージーランド短期留学。私はフランス語圏での滞在経験はあるものの19年ぶりの海外。英語はしゃべれない。ティームズの町がだんだん近づく。ホストファミリーとの対面にどきどき。長旅の末、やっとEVAに到着。エリコ先生はじめEVAのスタッフの温かいおもてなしに心がほぐされる。連と私は、出迎えてくれた老婦人と共にニュージーランドの家へ。初日は、隣に住む娘夫婦と孫娘のティシーも一緒にニュージーランド風のハンバーグの食卓を囲み、質問攻めに。英語がわからないまま何とか自己紹介が終わる。そして連が娘さんから教わったのがなんとニュージーランド先住民のマオリ語の1から10まででした。TAHI,RUA,TORI（1,2,3）と息子が今でも口ずさんでいます。いよいよ小学校体験です。ティームズサウススクール、ここでもマオリ式の歓迎会で私たち日本人をもてなしてくれました。鼻と鼻をくっつけるマオリ式の挨拶は日本人には照れくさいものがありました。翌日から連は一緒に行った日本の子供達と元気に登校。大人は、EVAのキャサリン先生と楽しく初級英会話レッスン。午後からは、アクティビティ。ロバに乗ったり、海岸でムール貝を採ったり、温泉プールに入ったりしてコロマンデル半島を肌で感じる毎日。ホストファミリーのマリーンとジョンは毎晩、地鶏や地卵、ラム、狩猟したての豚にスネイパー（鯛）のフライなどニュージーランド料理の数々を。そして、それを全て食べつくす連に私もマリーンもびっくり。私たち親子の英会話力などお構いなしにしゃべり続けるマリーンによって連もあっという間に英語恐怖感から解き放たれ、朝から元気に「Good morning」。今、日本に帰ってみるとティームズのゆったりとした町並み、コロマンデルの海とどこまでも見渡せる空と緑の森、自然と先住民マオリの文化を守り伝えようとする人々の心が私たち親子の心を本当に満たしてくれたんだと思います。留学をナビゲートしてくださったMichi先生に本当に感謝しています。そして不登校の話をする私に「お母さん、あきらめないで下さい」とエールをくれたEVAの日本人留学生の青年の言葉も忘れられない一言となりました。有難う。今、息子は日本で学級崩壊のようなクラスながら自分の居場所を見つけて頑張っています。最後に、私にあのニュージーランドの感動を再び与えてくれたニュージーランド映画『クジラに乗った少女』を紹介させていただきます。

☆金丸信乃

☆金丸連

金丸連（小2）

ひこうきの中では、ひこうきについてるゲームができておもしろかった。テレビとゲームいがいに、えいがと日本のアニメとかむかしのえいががすきに見れた。ひこうじょうについてからゲームをしようとおもったら5セントなのになかったから10セントを2まいいれたら、おれとだいちでいっしょにできた。ひこうきがとびたったときはゆれたけど、朝だからこわくなかった。たいがといっしょにひこうきの中をたんけんしてから、いっしょにゲームをしておもしろかった。学校はひろい。算数とずこういがいは、ほかのクラスの人と音楽をやった。マウリ人さんとニュージーランド人さんがいた。ホストファミリーはすごい。モジョというじゅうをホストファミリーのジョンがもっていた。モジョはハンティングのためのじゅう。ホストファミリーがハンティングしてきた、とり肉とかぶた肉をたべた。その中で一番おいしかったのがとり肉だった。クムラという、せかい一おいしいくだものをたべた。せかい一あまいおいも。でもくだものか、やさいかは、まだわからない。たべれる貝でもニュージーランドのかいがんにおちている貝はなんでしょう？①そう貝②はまそう貝③いそう貝④マッソー。みんなでバスにのって行ったかいがんで貝とりをした。貝は、かいがんにおちていたり水たまりの中にいた。貝いがいに、ひとでとかカニがいた。こたえの貝はマッソー。ほかにも、しじみもいた。プールにはこがたのバスで行った。バスの中のいすがソファーで、けしきもよくてきもちよかった。前から2番目のいすがよかった。ソファーにねころんだ。プールは、あったかくておんすいプールなのに外にあった。だいちがおよいで、その上におれがのっかった。ひこうきはむじゅうりょくでとんでるよ。

金丸龍二郎（連、父）

成田国際空港出発ロビー、連は初めての飛行機に期待と不安を抱えながら母親とニュージーランドに旅立った。大きく手を振る連に、心の中で何かが変わることを祈りながら私も大きく手を振った。帰国の日、到着ロビーで連がどんな顔で現れるかわくわくしていた。はにかみながら私の顔をみるいつもの連。そして、駐車場に向かう途中、カメラを落として壊す。母親に叱られた連が素直に反省している。感情をコントロールしている。当たり前のことが不登校になった時以来出来なかったのだ。変わったと思った。その後も理屈ではない私の目には見えないけれど、ニュージーランド効果は今も続いている。

ニュージーランドの思い出…道方結美　New Zealand

昨年の4月の20周年パーティーに刺激され、翌日から再び英会証のlessonをはじめました。なんと言っても、Englishは私にとって、とても重要（娘はあまり日本語が上手でない為）の割には、仕事に追われ長い間お休みしていましたが、今は週一回の個人lesson、hardだけどenjoyしています。で、先月、NZに行ってきました。10日間（schoolは5日間）とshortでしたが、中身は濃いものでした。まず、ホームステイ先は、whitiangaの丘の上の一戸建てに住むご夫婦の家庭、とにかくメチャメチャ環境がいい!!静かな事この上なくお隣はfarmで羊がいて、毎朝メエ～の声で目覚め、窓を見るとマーキュリーベイが一望でき、普段の生活とガラリッ!!

メチャメチャ癒されました。で、EVA schoolですが、まず受付にENGLISH ZOONの張り紙が。。。当たり前の事なのに、内心、私はエ～、そんな～!!で、まずTestその後lesson start 10代20代前半の子たちにまじり、そこはおばさんパワーで図々しく（?）楽しく過ごしました。ステイ先が、schoolから遠い為、毎日送迎をして頂いたのでがお陰でlesson後からPick upまでのfree timeも充実!初日に1人で町まで歩いて行き、さーそろそろ学校に戻ろうと思い帰路に着いたはずが、一本手前を右に曲り迷子に…さー大変子供が遊んでいたので訪ねたけれど要領を得ず”パニック”。その時、家のドアを少し開けた女性を見つけ、思わずhelp me--!!　ひどい英語で話しかけ助けを求めなんと親切なその方、一緒にEVA schoolまで連れていって下さいました。2日めからも lesson後は、ハーバーでボーとしたり宿題をやったりまーとにかくwhitiangaは、安全な町だから不安なんて全くなし!!人々は親切の一言!!やはりあの素晴らしい環境で生活していると心が豊かになるでしょうね。私は、今回、英会話のlessonだけでなく、人にとって何が大切なのかを益々考えさせられた気がします。で、感心の語学の方は”短いながらも経験に優る物はない”と痛感しました。いい体験をさせて頂いて日本、NZの先生方&ホストファミリーの方に感謝です。そして、また必ず、whitiangaに行くと心に誓っています。

☆道方結美

「ホームステイ」での思い出…立松貴央　New Zealand

1ヶ月のNZ留学で最も思い出深かったのが「ホームステイ」での数々の出来事です。僕の面倒を見てくれたのは「ラーマン一家」。この家族はミュージシャン一家で、家の中には楽器がたくさん置いてありました。僕がなぜ、ホームステイでの思い出が最も思い出深かったのかというと、実はNZ出発1週間前に、足を骨折してしまったのです。そんな中での留学。もちろん両手には松葉杖。その結果、僕はNZでは外に出歩けず、ステイ先と学校を行き来する生活となるはめに。ですが、ラーマン家での生活はそんな状態の僕にとっても、とても思い出深い体験をたくさんできました。僕自身、数年来楽器を演奏している身だったので、ラーマン一家と週に何回か自宅でセッションを行えたこと。週末にはこんな状態の僕を気遣って、車でいろんなところへ連れて行ってくれたこと。NZのビックイベント「スカラップフェスティバル」の何百人もの観客のいるステージで演奏させてくれたこと。同じくステイ先をともにした、サウジアラビア人「アリ」との自宅での英会話練習。友達やEVAの先生を家に招いて僕のフェアウェルパーティーをさせてくれたこと。数々の体験がすべて、この家から生まれたような気がします。もし、僕の足がこんな状態でなかったら、何かほかの体験をしていたかもしれない。でも、僕が感じたのは、EVAの留学はよくある留学本などに書かれている「この留学のメリット」的な提供以上のことをしてくれると感じました。たとえ留学する人がどんな状態にあったとしても、きっとEVAの留学はその人にあった素敵な経験をすることができる、ということです。